



## 三條別院お取り越し院報恩講 厳修

二〇二一年 十一月五日(土)〜八日(火)

皆様のご参勤、ご参詣をお待ちしております

### 三條別院に想う

思いがけず、この原稿を書くことになりました。依頼されたとき、お断りすればよかったですがお引き受けしてしまい、それから気になり出し頭から離れなくなりました。「三條別院に想う」と題されても、恥ずかしい想いしかないのです。私が最初に別院にお参りしたのは、小学校六年生で卒業式近くのまだ雪の深い頃でした。父に連れられた列車に乗っていきました。もうお分かりになられたと思います。得度の考查を受けにいったのです。「正信偈」だったろうと思いますが、恥ずかしながらろくに練習をしないで受けた状態ですから、読める訳ありませんでした。

所長さんが「あなたは一人っ子だそうですね。ゆくゆくは寺の住職として、皆さんと一緒に教えを伝えていくことになります。この後一生懸命勉強してくださいね」とやさしくお話をしてください

いました。お慈悲によって合格となった訳です。覚えているのは大きく広い寺だな位でした。母の実家が曾根なので遊びに行く際、弥彦線から大きい屋根を「別院だ」と見上げたものでした。学校を卒業後は小寺なので就職したため、別院に参詣をほとんどしないありさまでした。

蓮如上人御一代記聞書にある赤尾の道宗様の「二月のたしなみには、近きところ、御開山様の御座候うところへまいるべし」と申されたことと大きな違いがあります。一月に一度どころか何年に一度も参詣をしないで空しく過ごしてきました。近年ご縁に恵まれや々と参詣ができるようになりました。それでも一月のたしなみにはなりません。昨年教区お持ち受け法要が円成しました。私も当組のお持ち受け法要に関わりましたが準備等大変でした。まして、教区のお持ち受け法要に携わられた皆様の御苦労はいかばかりだったかと拝察いたします。今度は教区の本法要が厳修されるものと思えます。準備等の労苦はお持ち受け法要の時

よりも多大にかかるのではと推量いたします。ご縁を戴ければ、私も一月のたしなみに微力を尽くしたいと思えます。

(第十二組光徳寺住職 菊地 彰三 氏)

○次回の「三條別院に想う」は、

相川 福栄知 氏(第十七組 清徳寺門徒 より

ご執筆いただきます)

### 改観寺雑巾講による雑巾贈呈式

去る十月十三日、改観寺雑巾講による雑巾贈呈式が行われました。雑巾講の皆様には、もう十年近く、雑巾を寄付していただいています。雑巾講は、三條別院で掃除奉仕や聴聞を熱心にされていた、村木ムメさんのお仕事を手伝うという形で始まったそうです。講員の方々が一枚一枚手縫いされた雑巾二二三枚をご進納いただき、また本年は包装紙を利用したエコ菓子器二二三個も頂戴いたしました。

さて、本年もお取り越し報恩講が近づいて参りました。十月二十五日に行われた報恩講に向けたおみがき・清掃奉仕を中心とする秋の別院奉仕研修(後述)に



【本堂にて雑巾贈呈】

は、雑巾講より進納頂いた雑巾を使用させていた  
だきました。皆様の思いを大事にして、清掃とい  
う身近なことから、別院の護持に勤めて参りたい  
と思います。

### ■秋の別院奉仕研修開催

去る十月二十五日、三条別院お取り越し報恩講  
に向けておみがき奉仕団が行われました。今年度  
も推進員や別院有志の会のみなさんと仏具のおみ  
がき、院内清掃、境内の野外清掃と3つの作業に  
わかれてご尽力いただきました。野外清掃ではあ  
いにくの悪天候の中作業していただき、院内清掃  
では天井の煤やクモの巣などを重点的に、おみが  
きでは一年間のうちにくすんでしまった仏具に輝  
きが戻りました。

お取り越し報恩講を目前に控え、それぞれの場  
所で会話を交えながら作業する様子は蓮如上人御



【清掃後の記念撮影】

一代記聞書にある「談合」と「讚嘆」という言葉  
を想起させるようでした。また奉仕後の別院を見  
ていると、いよいよお取り越しが目前であると改  
めて感じさせます。

みなさま、別院に御参詣の際は、奇麗になった  
別院にもご注目いただければと思います。

### ■お取り越し報恩講儀式作法講習会開催

教区内のより多くの僧侶に報恩講に出仕いただ  
くことを願い、本年より三条別院を会場に一回、  
新潟地区・長岡地区・柏崎地区・新潟北地区・佐  
渡地区と一年ごとに会所を変えて一回、計二回の  
講習会を開催することとなりました。本年は柏崎  
地区(第十組光圓寺)、三条別院を会所に講習会を  
行い、それぞれ九名・十名の出席をいただきました。  
講師に元本山定衆、安藤栄寿氏(第二組 勝  
樂寺)をお招きし、内陣出仕並びに退出の方法を  
中心に指導いただき、特に三条別院報恩講を念頭  
においた講義・実技が行われました。また、莊嚴  
とは肉眼で見えないものを見えるように象ること  
であるという曾我量深師の言葉を引用しながら、  
「浄土」を象った内陣で所作をさせていただく精  
神にも言及されました。

来る三条別院報恩講に、多くのご参勤をお待ち  
しております。

### ■御命日(二十八日)の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日  
に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話

その後、座談会の場を開いております。  
どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣  
をお待ち申し上げております。

なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後  
一時三十分よりお勤めをしております。

### 【十一月二十八日(月)】

午前十時 お勤め(御命日 日中法要)

文類偈 真四句目下

念仏讚 洵五

和 讚 回口 次第六首

回 向 願以此功德

### ◎今月の法話講師

多田 修 氏(第二十組 照覺寺)

### ◇今後の講師一覧

十二月 関根 正隆氏(第三組 長徳寺)

### ■定例法話会のご案内

毎月十三日には、「両度の命日」と呼ばれている  
前門首のご命日です。また、蓮如上人も御文の中  
で、この「両度の命日」についてお書きになられ  
ています。(四帖目十二通)

三条別院の一番古い建造物である旧御堂で仏法  
に触れるひと時を味わいませんか。

皆様、お気軽にお越しください。

◇日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く

午後一時三十分より(約一時間程度)

◇場所 三条別院 旧御堂  
◇御講師

十月～十二月

風巻 和人 氏 (第十組 祐光寺)

一月 休会

二月～四月

塚本 智光 氏 (第十八組 等蓮寺)

※風巻・塚本両氏には、各々三ヶ月にわたって  
ご法話をいただきます。

### ■同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、同朋会館一階 事務所にございます宿泊者帳に記帳していただき、シートクリーニング代としまして、五〇〇円いただいております。

また、翌朝七時より本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただきますようお願い致します。

### ■三条別院巡回について

かつて三条別院の御影をお迎えし、各ご門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数えるほどしか行われていません。

ご門徒の皆様をはじめ有縁の方に、ご案内いただき、三条別院御影巡回がより多くの方々のお念仏をいただける場となるご縁となりますことを、願っております。

※曜日・時間等は昼夜問わず、皆様のお仕事の後などご相談させていただきます。

### ■別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によって護持されてきました三条別院にお越しいただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇うことを通じて、ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となることを願い、奉仕研修会を開いてみませんか。

○日程及び内容について、ご要望等ございましたらご相談承ります。

○奉仕研修会をお申し込みいただく方(団体)へ、冥加金としまして左記のとおりお願いいたします。

#### ◎冥加金

・日帰り 一、五〇〇円  
・一泊二日 二、五〇〇円

#### ◎食事代(昼・夕食は業者発注のため)

・朝食代 五〇〇円  
・昼食代 一、〇〇〇円程度  
・夕食代 一、三〇〇円程度

### ■三条別院有志の会について

三条別院では「有志の会」と称し法話や座談会(茶話会)など、近隣の方をはじめ、有縁の方に集まりいただいております。会員の皆様には、このたびのお取り越し報恩講にもご奉仕をいただくことになっております。

現在十余名の有志の皆様によって活動しておりますが、「三条別院有志の会」では、より多くの方

にご参加賜りたく、新たな参加者を募っております。お気軽にどなた様でもご来院くださいませう、ご案内申し上げます。お問い合わせは三条別院まで。

### ◇◇編集後記◇◇

まもなく、当別院でお取り越し報恩講が厳修いたしますが、(これが皆様の手元に届く時はすでに始まっているかも・・・)そのお取り越しに向け、毎年、より多くの方から出仕していただけることを願い、儀式作法講習会を開催し、推進員の方々には仏具のおみがきをお手伝いいただいております。また、助音方、掛役等の方々も習礼をし、本番までの準備を行っています。その他にも、坊守会や青少年部門、女性スタッフ等々の方々に、それぞれの役の加勢をお願いし、ご尽力をいただいております。各組では団参を組んでいただいております。

#### 「作り上げる報恩講」

この言葉が脳裏に浮かびます。皆様の手によって、それぞれの形で、崇敬区域である三条教区の皆様のお陰で、「三条別院お取り越し報恩講」は無事勤められます。

ご参勤、ご参詣、加勢スタッフの全ての方に感謝し、手を合わせたいと思います。

(大滝)